

# 【ATLANTIS Logic & Expression I Standard One-year Syllabus】

## 1. 本書の特色

### 特色1・繰り返しによる学習

身近な話題について英語で会話する能力を養うため、よく使われる表現を選出しました。基礎的・基本的な知識・技能をしっかりと身に付けさせるため、導入から展開へ、少しずつつながりや広がりが持てるよう工夫しました。例えば、はじめは基本文型を用いてごく簡単な表現を使って自分自身のことについて述べたり、その後は、友人や先生に質問したり、さらにまとめには、実際に起こりうる場面を想定し、登場人物になりきって演じたりできるよう練り上げました。重要表現がレッスンに1度だけではなく、何度も出てくるようにし、かつその表現が英語を日常使用する人々にとって自然な表現であることに重きを置いて構成しました。

### 特色2・段階を追った発展的な問題

学んだ内容を、個人からペアワーク、3～4人のグループワーク、そしてクラス全体で意見交換できるよう構成しました。少しずつ発展的な問題に取り組むことによって、自ら考え、判断し、表現する力が身に着くよう、またその過程で少しずつ外国語学習に自信が持てるよう配慮しました。

### 特色3・継続的な学習意欲の育成

自主的に学習に取り組み、外国語に興味・関心が高まるよう、外国語を使用している人々を中心とする世界観をふんだんに味わうことができるような内容を選び、視覚に訴える写真、図、トピックに関連した問題づくりに努めました。これらの題材や写真等が効果的となり学習意欲を継続させていくことを期待します。

### 特色4・会話を意識した展開

英語表現を覚えたり表現できるようになったとしても、相手の目を見て話せなかつたり、対話の相手との距離が遠すぎたりしては真のコミュニケーション能力が身についた、とは言い切れないでしょう。全レッスンを通して、アイコンタクトを意識させ、また相手の意見を受け入れるという聞き手の態度も養うことに重きを置きました。生徒にとって身近な題材を選定したことで自他共に会話の内容に興味を持ち、会話を続けたい、さらに聞き出したい、と思えるような意欲が身についていくことを期待します。

## 2. 編修の基本方針

教育基本法第二条の目的を達するために、以下を編修の基本方針としました。

- ① 言語の特性を幅広く学びながら、コミュニケーションを図ろうとする態度を育成できる内容としました。
- ② 多様な価値観を学んだり、その内容を他者と交換し合ったりすることで、互いの意見が尊重される経験を積み重ねられるよう留意しました。
- ③ 英語の実用性等を学ぶ中で、自他の違いを重んじる態度を育み、主体的に社会に貢献しようとする態度を養える内容としました。
- ④ 生命を尊び、自然を大切にし、環境の保全に寄与する態度を育成するため、世界を舞台とした題材を展開することで視野を広げられるようにしました。
- ⑤ 進んで外国の文化を理解しようとする態度を育成するとともに、国際理解や国際感覚を養い、国際社会に関心が持てるような内容を厳選しました。

### 3. One-year Syllabus

月	レッスンの構成・内容	題材内容	扱う文法事項等	授業数
4	<b>Natural English</b> <b>Classroom English</b> <b>Introduction Questions</b>	教室でよく使う表現等について学ぶ。授業で何度も繰り返し使用することでしっかりと身に付けていく。相手の話を聞いて内容を理解するとともに、場面や目的に応じて適切に応答する基礎を養う。	中学校での学習内容の復習	適宜
	<b>Warm-ups 1-10</b>	中学校で学んだ内容について復習する。各ウォームアップは、1つの文法ポイントに焦点を合わせ、着実に基礎基本の定着を図る。	中学校での学習内容の復習	3
	<b>Lesson 1</b> I like to meet new people.	「自分自身について話し、相手について知る」 新学期スタートにあたって、新しい友人関係や学級づくりにふさわしい題材である。自分自身のことや身近なことを少しづつ表現できるよう段階を踏んだ演習を設定した。「自由時間に何をするのが好きか」という問いかけを中心に自他共に質問する活動を行う。	不定詞 動名詞	2
5	<b>Lesson 2</b> I usually wake up at 7:00 in the morning.	「日課を説明する」 自分自身の日課について英語で表現する。自分自身のことについてより詳しく表現できることは、コミュニケーションが長く続くための自信にもつながる。まとめのグループワークでは、協調性を養いつつ全体発表に挑戦する。	頻度に関する副詞	2
	<b>Lesson 3</b> How about going shopping?	「招待、承諾、拒否をする／趣味について話す」 誘ったり誘われたりする表現を学ぶ。友人や家族との日常の中によくあることである。ここでは、誘い方だけではなくその応答も同時に学ぶ。円滑なコミュニケーションを続けるテクニックを身に付ける。	提案の基本型	2

6	<b>Lesson 4</b> You should visit Kyoto.	<p>「アドバイスをする／文化の違いについて話し合う」</p> <p>アドバイスの表現について学ぶ。アメリカと日本の習慣の違いについても学ぶ。should と had better のニュアンスの違いについても体得する。</p>	アドバイスの基本型	2
	<b>Lesson 5</b> A pizza delivery person has to wear a uniform.	<p>「アルバイトについて話す／日本と米国の高校生活の違いを討論する」</p> <p>学校生活や社会生活の中で規範を守ることは大変重要なことである。規範を守る大切さや考え方を討論形式で学び合う。ここでは、「～ してはいけない」の表現をメインに学ぶ。生徒にとって身近でリアルな題材を通して、これからのお仕事観についても討論する。</p>	許可の基本型	2
7/8	<b>Lesson 6</b> How was your vacation?	<p>「今まで体験した休暇について話す」</p> <p>過去に起きたことについて質問し合う。導入は、よく使われる表現に絞り、子供時代を振り返る題材を取り入れている。よく使われる表現を学ぶ中で、日本人が間違えやすい表現、例えば単数形複数形の使い方の注意点についても確認する。</p>	過去形 <b>was / were/ did</b>	2
	<b>Lesson 7</b> What did you do last weekend?	<p>「何をしたか、について尋ね合うやり取りをする」</p> <p>「何をしたか」についての表現を学ぶ。話すこと（やり取り）をこれまで学んできた学習内容を振り返りながら行う。</p>	WH 疑問詞＋一般動詞	2
9	<b>Lesson 8</b> I used to live in America.	<p>「子供時代について話す」</p> <p>Keiko のアメリカでの生活を通して、生活体験についてやり取りをする。「I used to ~ かつて～していた」という表現は、外国人ともよく交わされる代表的な会話のやり取りでもある。ここでは、アクティビティから自分の過去について、一歩踏み込んだ表現ができるようになることを目指す。</p>	I used to と過去形	2

	<b>Lesson 9</b> Big cities are more expensive than small towns.	「大都市と小さな街を比較する」 「より～」という表現について様々な場面を設定し、会話力を定着させることをねらいとする。ネイティブがよく使う more / less の表現について確認し、より自然な英語表現が身につくことをねらいとする。	比較級	3
10	<b>Lesson 10</b> Who is the funniest person in your school?	「～の中で1番（良い、悪い、1番面白い）を表現する」 「～の中で1番」という表現はとても使いやすく、またそれぞれの価値観が知れるやり取りの一つである。実際の生活場面に置き換えてどのように表現できるかも大切である。	最上級	3
	<b>Lesson 11</b> I wish I had more free time.	「願望を表現する」 「～だったらいいのになあ。」という現在の事実と異なることを願う表現を学ぶ。様々な場面に応じた表現を学び基礎的・基本的な知識を身に付け、自分自身のことについて表現することに挑戦する。	wishを使った仮定法	3
11	<b>Lesson 12</b> If I were rich, I would buy a big house.	「～するとしたら…を想定しやり取りをする」 「～ するとしたら…」という表現を学ぶ。様々な場面に応じた表現を学び基礎的・基本的な知識を身に付け、自分自身の未来想像についての表現を学ぶ。	If +wouldを使った仮定法	3
	<b>Lesson 13</b> Have you ever been to Mount Fuji?	「経験について話す」 「今まで～したことはありますか。」という表現は、友人同士でよく使われる表現であるとともに、英語話者からもよくたずねられる質問でもある。また、「(いつから／どれくらいの間) ずっと～している」という表現も学び、コミュニケーションに幅を持たせる。	現在完了形 (完了用法／経験用法／継続用法)	4

12	<b>Lesson 14</b> Flowers and trees will be planted in the garden.	<p>「家の改築工事を対話する」</p> <p>家の改修工事という場面を通して、受動態の過去、過去完了、進行形についての表現を学ぶ。英語の「する、される」と日本語相違に留意しながら、時制の違いによる表現の差異を学ぶ。</p>	受動態	3
1	<b>Lesson 15</b> I have a friend who plays the guitar well.	<p>「まわりの人々や世界の国々について情報や考えを伝え合う」</p> <p>「人、もの、こと」についてより詳しく説明する表現について学ぶ。</p> <p>2つの文を組み立てることで、表現の幅が広がること、Is there~?を使った表現でよりネイティブに近い関係代名詞を習得する。</p>	関係代名詞 <b>who, which, that</b>	3
2	<b>Lesson 16</b> America is the country where jazz was born.	<p>「日本と米国の祝日の違いについて情報を交換する」</p> <p>L15に続き、ここでは「時、場所」についてより詳しく表現する上で のポイントについて重きを置く。代名詞の有無なども含め、しっかりと学びを深めるには最適なレッスンとなり、1年間の総復習もねらいとする。</p>	関係副詞 <b>when, where</b>	3
3	<b>Additional Activities</b>	<p>「追加のアクティビティ」</p> <p>各レッスンの内容の振り返りをする。1ページごとに各レッスンのポイントをまとめてある。各レッスン後に活用しても、全レッスン全て終わってから活用しても良い。</p>	既習事項の復習	8
	<b>Conjunctions</b>	<p>「意見や主張の展開」</p> <p>接続詞を用いて自分の考えをよりスムーズに表現する。</p>	接続詞	5
	<b>Irregular verbs</b>	<p>「不規則動詞一覧表」</p> <p>本書で扱う不規則動詞一覧表を活用し、学習者をサポートする。</p>	不規則動詞	適宜

<b>Pronunciation</b>	「発音」 ネイティブならではの視点でまとめた英語発音についてのポイントである。発音指導をする。	発音	適宜
<b>Presentation</b>	「プレゼンテーション」 ネイティブスピーカーの視点でまとめたプレゼンテーションの在り方、やり方である。話すこと、発表することの強化を行う。	プレゼンテーション	8
<b>Debate</b>	「ディベート」 ディベート力を磨く。話すこと、書くことを同時にい、各活動の充実を図る。	ディベート	5
<b>Word list</b>	「語彙一覧表」 学習した内容への理解が深まるよう語彙一覧を活用する。	単語、フレーズの一覧表	適宜
<b>Translation</b>	「会話文や短い物語文の訳」 生徒の学習のサポートになるよう和訳を適宜活用する。	各レッスンの会話文の和訳	適宜
<b>Sing a song</b>	「歌」 より英語学習に興味関心が持てるよう、代表的は英語の歌を紹介する。	巻頭見出し表紙の和訳	適宜
		総計	70